

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策Ⅲ-2-2 スポーツの振興
---------	-----------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	保健体育課長 堀江 隆典	電話番号	0852-22-5722
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	県立体育施設管理運営事業		
目的	(1) 対象	県民	
	(2) 意図	施設の利便性を高め、スポーツの普及を図る。	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 施設の利用者を増やすため、施設の利用者に対し、利用しやすい施設管理及び参加したくなるスポーツ教室等企画運営を行う。 安全かつ安心に利用できる施設とするため、各施設について、耐震化など必要な調査・整備を実施する。 		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			式・定義	県立体育施設（5施設）を利用した利用者数	目標値	251,270	251,270	
式・定義	1年間に県立体育施設（5施設）を利用した人の延べ人数	実績値	266,187	266,635	244,359	271,372		
		達成率		106.10	97.20	108.10		%
式・定義	指標名	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値	0.00	0.00			
式・定義		実績値	0.00	0.00	0.00			
		達成率		0.00	0.00			%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	371,823	485,742
うち一般財源(千円)	310,421	395,088

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- 体育施設等の利用者総数が過去最高値である。
- 武道館の柔道教室の参加者が、東部西部を問わず、急減している。
- 水泳プールの個人利用について、施設毎の利用者数がアンバランスになっていく傾向がある。

【柔道教室】	武道館	石見武道館	【プール個人利用】	プール	トレーニング室	
H25	93人	74人	H24	28,528人	31,746人	▲3,218人
H26	63人	49人	H25	28,645人	33,489人	▲4,844人
	▲30人	▲25人	H26	21,947人	35,656人	▲13,709人

6. 成果があったこと（改善されたこと）

・新規の施設利用者を増やす試みが適切に実施されていることの結果が現れている。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

・武道館の主たる競技でもある柔道のスポーツ教室の参加者が急減している。
 ・7～8月に台風等により天候不順だったため、水泳プールの主たる施設であるプールの利用者が急減している。

②困っている状況が発生している「原因」

小学生以下の県内柔道競技者数が減少する傾向の中で（H20：722人→H25：491人）、H26は更に減少（H26：424人）。H25の全国的な柔道に関する事件・事故が影響していると考えられ、イメージが良くないことから柔道教室への参加がためらわれていると考える。
 プールの個人利用において7・8月の夏季の割合が年間利用者の7割強であるが、そのうち大多数が利用する屋外プールは天候の影響を受けやすい。

③原因を解消するための「課題」

・柔道に対する良くないイメージ・先入観を取り除き、参加したくなる柔道教室となるよう企画・広報をする必要がある。
 ・プールの個人利用者数は夏季に大きく偏っており、夏季の天候に影響を受けやすいため、それ以外の期間の個人利用者数を増やすことが安定した施設利用につながる。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・柔道教室の参加者の意見を参考に、柔道教室の講師と武道館職員で協議を行い、柔道教室の参加者の増加に向けたイメージ向上策等を検討する。また、県内全体の柔道競技者が減少していることを踏まえ、県立の武道館として競技団体とも連携して柔道の良さを伝え、イメージの改善に努め、競技者を増やす活動を行っていく。
 ・夏季の利用者が引き続きプールを利用することがその他の期間の利用の増加にもつながると考える。よって、夏季利用者の意見を踏まえ、その他の期間の利用促進策等について検討する。

◎課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）